

朝鮮通信使の歴史から学ぶこと

はじめに—史学界の主流がみようとしなかった近世日本像

四〇〇周年行事が残したもの—現代の日本人に通信使がよみがえる。

1. 作られた「鎖国」のイメージ—東アジア世界を見なかった幕末→明治の近代日本

「鎖国」の完成の虚像・ケンペル『日本誌』（邦訳は1801年）に初登場した「鎖国」

☆四つの窓口 ①長崎口→中国・オランダ②薩摩—琉球③松前—アイヌ④対馬—朝鮮

2. 朝鮮通信使とは

・江戸時代に12回、日本側の招きで来日した朝鮮国の外交使節団

・最初の三回は秀吉の侵略戦争の傷痕を埋める「回答刷還使」、のち將軍就職祝賀に

3. 朝鮮通信使の意義

①唯一の対等な外交関係 ②東アジア不戦の架け橋 ③対馬藩の（倭）和館貿易

④文化・学術の相互交流

朝鮮朱子学の受容／日光廟での礼拝儀式／『東医宝鑑』と通信使随員の医師たち。

海をわたった伊藤仁斎の「古義学」など／「コグマ」の伝播

④民衆の記憶と異国ぶり

「唐人雁木」「唐人踊り」「唐子おどり」「唐人人形」

⑤雨森芳洲（1668～1755・対馬藩朝鮮方佐役・真文役）の学んだこと。（『交隣提愷』

・「誠信」とは「争わず、偽らず真実を以て交わり候を誠信の交わりと申し候」

・「朝鮮交際の儀は第一、人情・事勢を知る事、肝要にて候」

・「日本、朝鮮、嗜好風義の違い候所に、日本の風義を以て、朝鮮の事を察し候ては必ず了簡違いに成り申すべく候」

・耳塚とても豊臣家無名の師を起し、両国無数の人民を殺害せられたる事に候へば、其の暴悪をかさねて申し出すべき事に候て」

4. 明治以降、人々の関心から遠ざかる。なぜか？

・明治政権の「脱アジア・入欧米」＝「脱亜入欧」政策→文明開化→侵略戦争

・朝鮮・中国は「とりやすいところ」（吉田松陰）→植民地支配の対象→劣った民族

5. 戦後の日本はアメリカのアジア政策の一環をになう→欧米文化の流行→アジア蔑視

・1980年代になってから教科書にはじめて朝鮮通信使が登場。

・東北アジアの平和と安定に積極的に係わることが現代日本の課題。

・多文化共生とは？